

159 一、空前の交通スト

—東京・名古屋—

終戦に入った春闘も、私鉄と三公社五現業の統一ストで最後の山を迎えました。四月二十六日私鉄あつせんも不測に終り、国労は半日スト、私鉄は二十四時間に突入、一千六百万人の足を奪い、戦後最大の交通ストライキとなったのです。

104 一、中日ビル完成

—名古屋—

このほど名古屋の新栄町に中日ビルが誕生。地上十二階、塔屋四階。合わせて十六階、五十三メートルのビルは名古屋城よりも高く、面積もわが国で五番目というマンモスぶり、内には中日文化センター、多目的劇場、医療センター、一流の会社、商店街ありといったビルは、まさに中日タウン。ビジネスと文化を結ぶ総合ビルです。

136 一、温泉にわく

—尾張温泉—

濃尾平野の中央、名古屋市にほど近い蟹江は、中京の湖来といわれる水郷地帯。そこに突然お湯が湧き出たからたまりません。水郷はたちまち温泉郷に衣がえ、名づけて尾張温泉。なにしろ愛知県で温泉はここだけというだけに、お湯をしたって近郷近在はもとより、遠方からもお客さんがおしかけ、町は大変な景気です。

214 一、北信地域地震、町ぐるみ防災へ

—松代—

今日も皆神山を中心に、震度三の地震が二回あった。体に感じないものまでも含めると、この月だけで五千回にもなる。

いつ起るか分からない大震災の恐怖。いつはてるかもしれない地震の恐怖のなかに松代はある。たび重なる地震にこわれる家が続出。家を捨て引越してしまった人も数多くいる。いたる所、地われの跡を残す大地。このキズ口は水田には問題だ。田植を前に農民は深刻である。四月二十二日、瀬戸山建設大臣を団長とする松代地震政府調査団が被害状況の視察に訪れた。地元民の調査団に寄せる願いは深刻だ。

いま松代は一刻も早い国の援助を待っている。